

2007年
平成19年
12月20日刊



沖館川をきれいにする会

発行
事務局
TEL 781-0862



「青森県の川物語」の講演会を開催



本会は本年12月14日(金)午前10時から沖館市民センターで、「沖館地域緑の募金推進協力会」と共催し、約60名に対する講演会を開催しました。最初、「里山に自生する薬木・薬草について(元青森県林業試験場長 若原壽明氏)」のお話があり、午後からは「青森県の川物語」と題してあおもりの川を愛する会幹事の 水木 靖彦氏 (元青森土木事務所長)による約2時間余に亘る大変貴重な講演がありました。川物語の2,3点(概要)について参考まで紹介しましょう。

1つは、本年11月12日青森市に発生した大雨215ミリは、1日の降水量が1886(明治19)年に観測開始以来の最多を記録し、旭町地区で大きな被害が出たが、全国的にも1時間に50ミリや100ミリを越す集中豪雨が増加傾向にある。

また被害者の方には酷だが、単に「記録的な大雨」とか「想定外の雨」などと言う責任を他者に転嫁するような用語がよく用いられているが良いこととは言えない。今後、市の都市排水事業にとって大きな教訓であったとの自覚と責任を持って諸調査を実施し、加えて河川整備にも万全を期すべき必要があると思う。

2つとして沖館川について述べると、1時間に54.3ミリ以上の降雨に対する多目的遊水地計画となっているが、気象台ゲーター(昭和20年～平成3年まで)による56.2ミリとして県が公表している。

3つとしては、青森市街地は、新城川、沖館川、堤川、赤川、野内川などで形成された沖積平野で、それぞれの河川堤防や海岸堤防で囲まれた5～6地区の「堤内地構成の低平地」と言ってもよい。しかも元々低平地で、且つこれまでも一貫した都市排水計画が実施されてきたとは言え難い状況から、水害に対する抵抗力が決定的に喪失している地域が多々見られると言うことである。

